



平成 17 年度活動報告集

平成 18 年 4 月

## 挨拶

東海構造研究グループ（略称SGST）は、土木構造工学に関するあらゆる領域について研究する団体です。中部地区で構造に関係する約10の大学、高専等の教育機関と約20社の法人会員（官公庁、企業）および構造に関わる業務、研究に携わる約120名の個人会員とから構成されています。

このグループによる研究会は、昭和53年に名古屋大学名誉教授の福本嘯士先生が創設され、以後組織改正を経て、平成元年4月から新しい組織規約が作成され今日に至っています。

研究活動の主な目的は、研究の発表などの種々の活動を通じて、立場を異にする会員間の相互理解、親睦を深めることにあります。定期研究会は隔月で開催され、また重要度の高いテーマについては有志によるグループを結成し2年間の研究委員会活動を行って、重点的に研究、討議を行っています。

2001年から土木学会の継続教育制度が始まりましたが、今年度も計5つのテーマについて申請し、すべて受理されています。これにより、会員の皆様の土木技術者としての資質向上の証明に役立てられています。今年度は3月に、長良川、木曾川にかかる伊勢大橋（約70歳）、立田大橋（21歳）の現場見学を行い、多数の参加を得ました。同3月には日本橋梁建設協会主催の平成17年度橋梁技術発表会をSGSTが共催して行われ、興味深い講演がなされました。

去年は日本道路公団が民営化され、公共工事削減やいくつかの問題もあって昨今の橋梁業界を取り巻く社会環境は非常に厳しい状況にあります。従来のやり方、考え方を根元的に変えていく必要があります、また業界のコンプライアンス（法令遵守）も強く求められています。このようなきこそ、特に若い人がしっかりと勉強すべきチャンスと考えます。企業も動きにくいときではありますが、当研究グループの活動が役立てられるよう、心より願っております。最後になりましたが、今年度の活動およびSGST活動資料集の発刊に際しご尽力頂いた幹事の皆様にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

本年度 SGST 代表 愛知工業大学  
青木 徹彦

# 東海構造研究グループ

Study Group of Structures in Tokai

2006年3月

## 東海構造研究グループとは

東海構造研究グループ（略称 S G S T）は、土木構造に関するあらゆる領域について研究する団体として、構造に関する諸団体（官公署、企業）および構造に関する業務あるいは研究に携わる個人とから構成されています。

このグループによる研究会は昭和53年に創設され、以後、組織改革が行われ、平成元年4月から新しい組織規約が作成され今日に至っています。これまでに種々の研究結果を挙げており、また、立場を異にする会員間の相互理解や親睦を深めるのにも大きな役割を果たしています。

## 沿革

- 昭和53年 4月 東海鋼構造研究グループ創設。代表 福本 喩士  
主として鋼構造部材の抵抗強度の信頼性評価が研究されました。
- 昭和59年 8月 東海構造研究グループと改称し、構造全般を扱うようにし、官公庁、企業、教育機関から多くの新規の会員入会がありました。
- 昭和61年11月 代表 長谷部 宣男
- 平成 元年 4月 組織規約が作成され、活動範囲を広げました。
- 平成 3月 4月 代表 宇佐美 勉
- 平成 7年 4月 代表 梶川 康男
- 平成 9年 4月 代表 山田 健太郎
- 平成13年 4月 代表 塩見 弘幸
- 平成15年 4月 代表 事口 寿男
- 平成17年 4月 代表 青木 徹彦

## 平成18年度 東海構造研究グループ代表および事務局

代表 青木 徹彦 〒470-0392 豊田市八草町1247  
愛知工業大学 工学部都市環境学科  
TEL 0565-48-8121 内307  
FAX 0565-48-3749  
E-Mail [aoki@ce.aitech.ac.jp](mailto:aoki@ce.aitech.ac.jp)

事務局 播金 昭浩 〒441-8510 豊橋市明海町1番地  
(幹事長) トピー工業株式会社 鉄構事業部 技術部  
TEL 0532-25-4850  
FAX 0532-25-9557  
E-Mail [a-harikane@topy.co.jp](mailto:a-harikane@topy.co.jp)

長屋 五郎 〒441-8510 豊橋市明海町1番地  
(幹事) トピー工業株式会社 技術研究所  
TEL 0532-25-5354  
FAX 0532-25-2384  
E-Mail [g-nagaya@topy.co.jp](mailto:g-nagaya@topy.co.jp)

## ■会の運営

会の運営は主として会員の納める会費があげられています。会費は会員の区分に応じて次のように決められています。

正会員	年額	2,000 円
賛助会員	年額	1,000 円
特別会員		
第1種	年額	30,000 円
第2種	免除	
名誉会員	免除	

特別会員の第1種と第2種については、研究会などへの行事参加への区別は全くありません。特別な事情により会費納入が無理な団体に対して、第2種は設けられていますが、現在はできるだけ第1種へ入会していただくようお願いしています。

## ■東海構造研究グループの活動

### 研究調査

研究会活動の中心となるもので、構造に関する種々の分野について、研究および調査を行います。隔月で開催される定期研究会で、その報告が行われます。この定期研究会は、立場を異にする者の間での情報交換の場となっています。また、重要度の高いテーマについては、研究委員会による重点的な研究、討論が行われています。本年度より、定期研究会は(社)土木学会継続教育プログラム(CPD)の認定を受けております。

### 現場見学会

会員全体が参加する行事として、不定期に開催されています。本年度は国道1号線の揖斐・長良川に架かる『伊勢大橋』と県道佐屋多度線の木曾川に架かる『立田大橋』を巡る見学会を行いました。

### 構造物研究および指導の委託

構造物に関する研究の委託および指導を受け入れています。委託の内容によっては委員会を作り、検討を行っています。

### 出版

本会の成果として、「鋼構造部材の抵抗強度の評価と信頼設計への適用」(1980)および「骨組構造物の座屈設計に関するフォーラム」(1994)を「橋梁と基礎」にそれぞれ2回に分けて発表しています。また、研究会での資料をまとめて「活動報告資料集」を毎年発刊しています。

### 講演会、講習会

構造に関する講演会および講習会の主催、共催または協賛を行っています。

協賛例：平成2年度 土木学会中部支部技術講座「構造物の設計にかかわる最近の話題」

平成4年度 土木学会中部支部技術講座「構造物設計における最近の話題

－景観設計とライフライン構造物の設計および管理－

平成6年度 土木学会中部支部技術講座「土木構造物の維持・管理・耐久性」

平成7年度 土木学会中部支部技術講座「阪神大震災から得た教訓と今後の耐震設計

－橋梁構造物－

共催例：平成17年度 橋梁技術発表会 「－橋梁技術の最前線－」

(主催：(社)日本橋梁建設協会)

## 組織と運営

### ■会員

東海構造研究グループは、以下に示す会員によって構成されています。会員には正会員、賛助会員、特別会員および名誉会員の4種があります。

会員区分	資 格
正 会 員	本会の各種事業の主体となって活動する次の各号に該当する者 (1) 構造物に関する業務に従事する者 (2) 構造物に関する学職経験者 (3) 前号に準ずる者
賛助会員	正会員の研究活動に参加しまたは支援する正会員の経験者およびこれに準ずる者
特別会員	本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する会社および団体、特別会員は第1種と第2種に分かれ、第2種の会員は会費納入の義務を負わない。
名誉会員	本会および構造物に関する功績が特に顕著であって、本会の総会において推挙された者

### ■総会および全体研究会

重要な議決事項は総会で審議されます。総会は年1回開かれることになっています。全体研究会は、隔月で開催されています。

### ■役員その他

本研究グループでは代表、幹事長、幹事および会計幹事の役員をおき、会の運営にあたっています。現在の役員は次の通りです。

代表	青木 徹彦	愛知工業大学 工学部都市環境学科
幹事長	播金 昭浩	トピー工業株式会社 鉄構事業部 技術部
事務局担当	長屋 五郎	トピー工業株式会社 技術研究所
会計担当	江間 康人	トピー工業株式会社 鉄構事業部 技術部
会計監査	大岩 義典	JIP テクノサイエンス 名古屋テクノセンタ
議事録担当	古田土 功	トピー工業株式会社 鉄構事業部 技術部
	高橋 昌利	日本車輛製造株式会社 鉄構本部 設計部
企画担当	田中 信治	中部復建株式会社 設計第一部
	鷺見 英吾	八千代エンジニアリング 名古屋支店技術第1部
研究会担当	永田 和寿	名古屋工業大学 工学部 都市社会工学科
	葛 漢彬	名古屋大学 大学院 工学研究科
	渡辺 孝一	名城大学 理工学部 建設システム工学科
	忠 和男	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
	深田 宰史	金沢大学 工学部 土木建設工学科
	鈴木 森晶	愛知工業大学 工学部 都市環境学科
HP 担当	小澤 優二	建設技術研究所 東京本社 構造部